

2014年3月期 決算説明会

大豊工業株式会社

2014年5月30日

将来見通しに関する注意事項

このプレゼンテーション資料に記載されている当社業績見通しは、現時点で把握している情報に基づき、当社が判断したものです。実際の業績は、今後の経済動向、市場の需要、為替レートの変動、税制や諸制度など、様々なリスクや不確定要素に左右されます。従いまして、実際の当社業績は見通しと異なる結果になる場合があることを、あらかじめご了承ください。

投資に関する最終決定は、上記の点を踏まえ、投資家の皆様ご自身の判断で行われるようお願いいたします。当プレゼンテーション資料に掲載された情報に全面的に依拠して投資判断を下されることはお控えくださいますようお願いいたします。

1 . 2014年3月期 実績

2 . 2015年3月期 予測

3 . 将来への取り組み

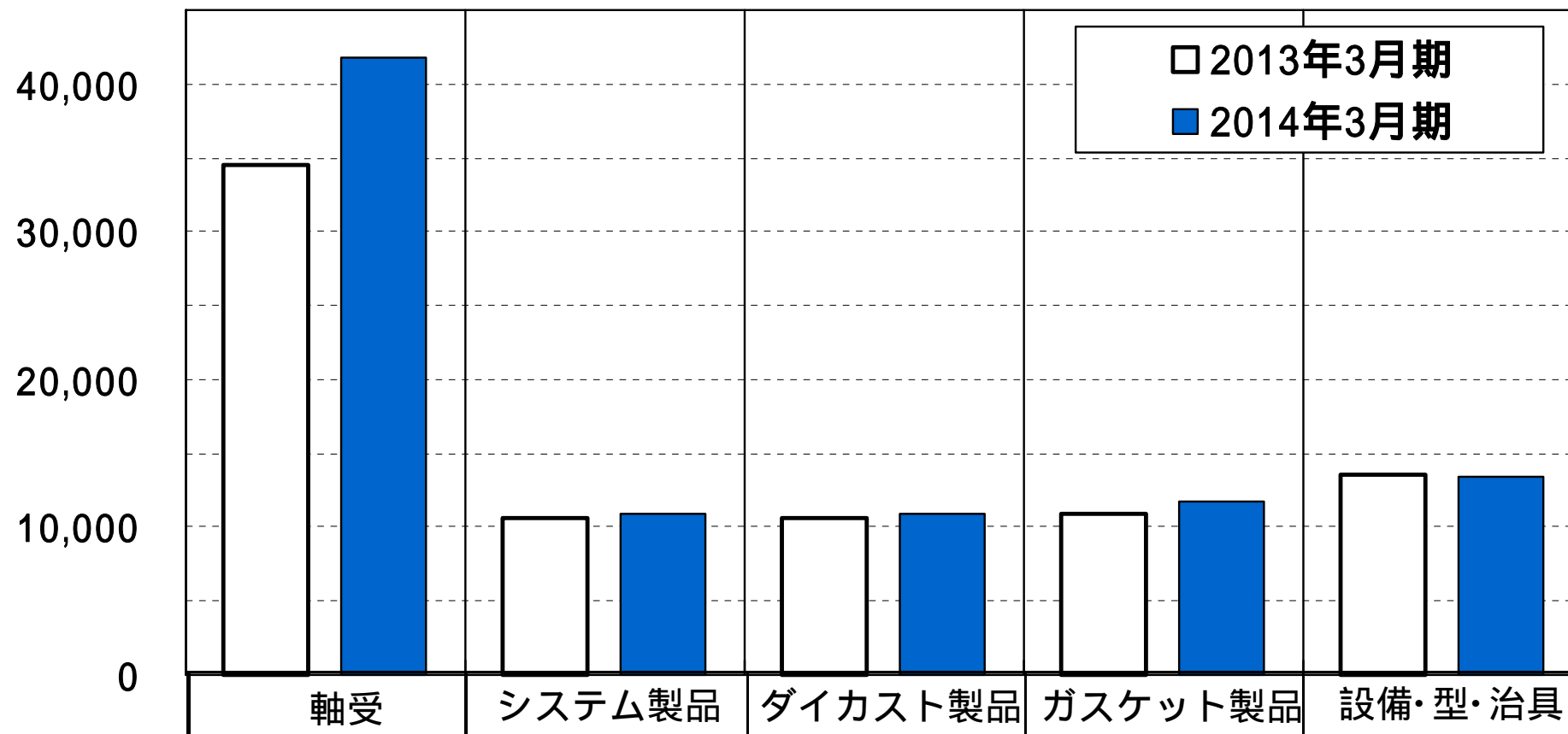
2014年3月期 決算の概況 =連結=

単位：百万円

	2014年3月期		2013年3月期	増減値 -	増減率
	修正後公表値	実績	実績		
売上高	92,000 (当初90,000)	93,632	86,102	7,530	8.7%
営業利益	4,500 (当初4,000)	4,162	3,219	942	29.3%
経常利益	4,600 (当初3,700)	4,449	3,461	988	28.5%
当期純利益	2,800 (当初2,300)	2,796	3,297	501	15.2%
為替レート	97円/ドル 125円/ユーロ	100円/ドル 134円/ユーロ	83円/ドル 107円/ユーロ	17円/ドル 27円/ユーロ	-
1株当たり 純利益	98.32円 (当初81.45円)	98.11円	116.78円	18.67円	15.9%
トヨタ 世界生産台数	905万台	895万台	856万台	39万台	4.5%

2014年3月期 事業別売上高 =連結=

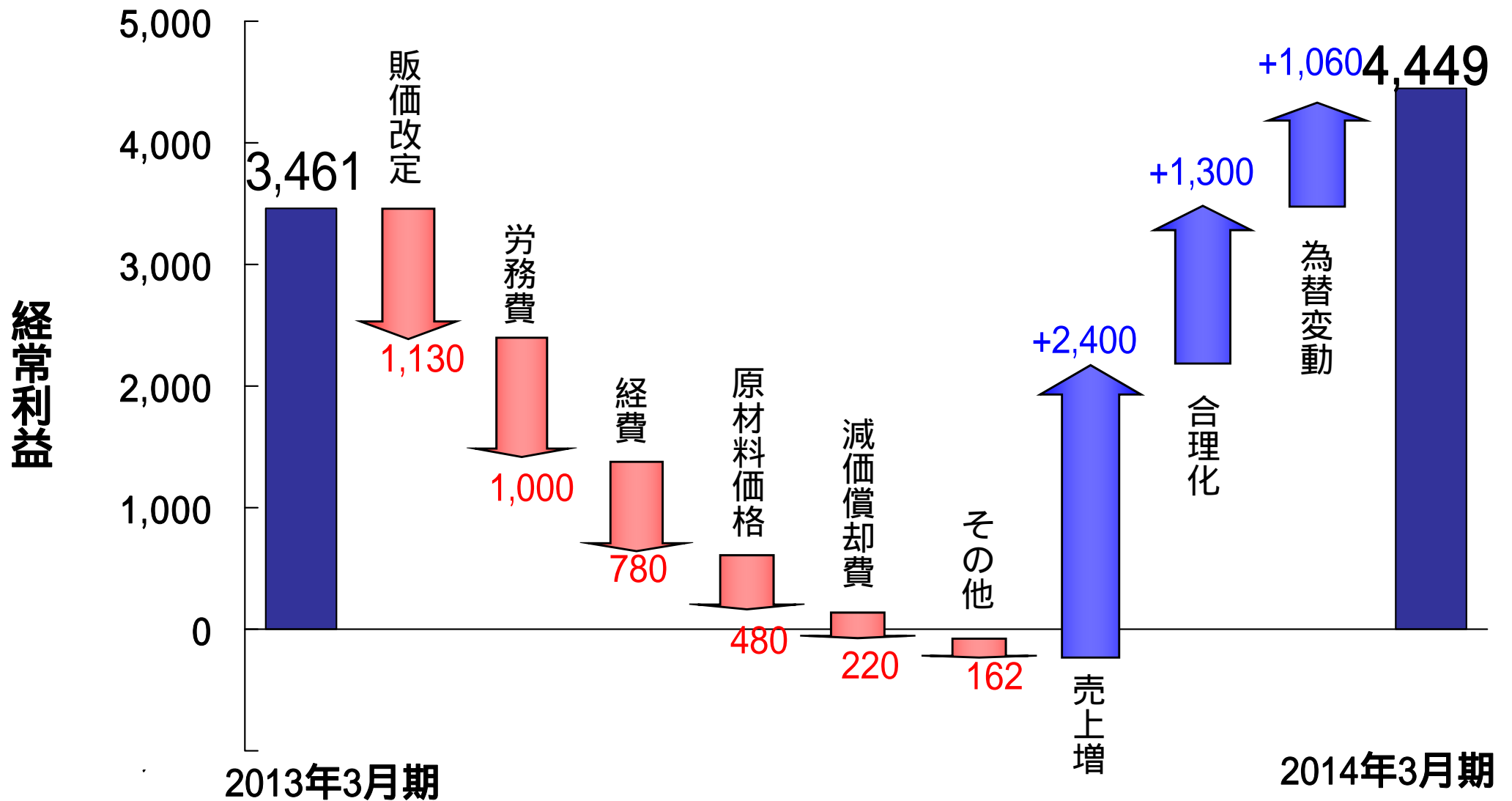
(百万円)



2013年3月期	34,503	10,689	10,675	10,898	13,529
2014年3月期	41,769	10,854	10,850	11,736	13,473
増減額	7,266	165	174	837	56
増減率	21.1%	1.5%	1.6%	7.7%	0.4%

経常利益増減要因(前年同期比) =連結=

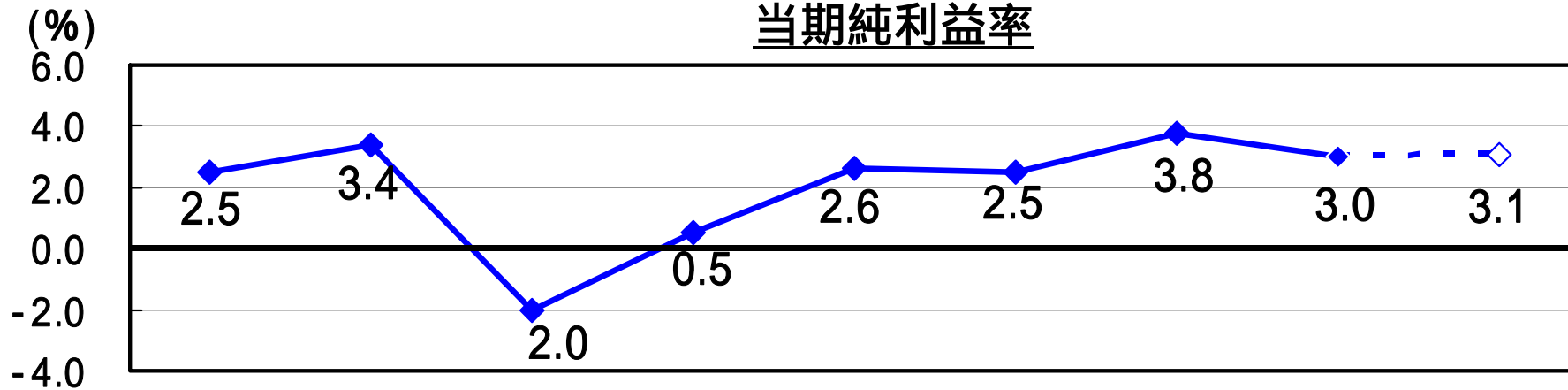
(百万円)



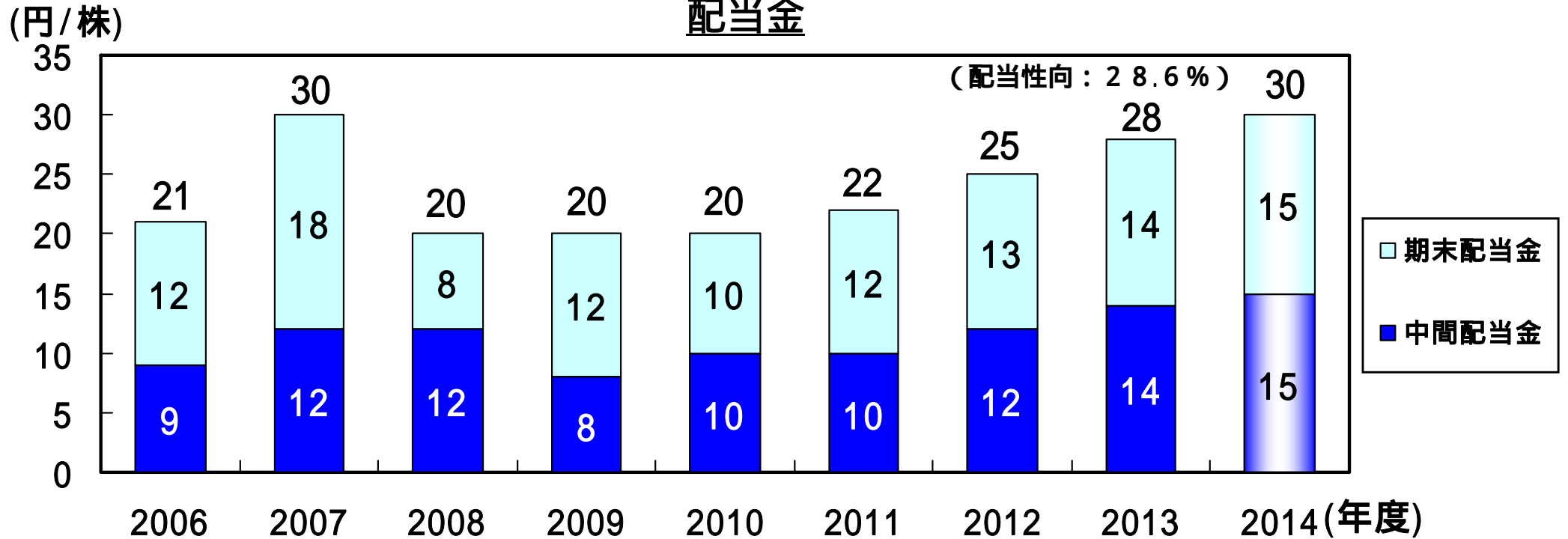
経常利益 988百万円の増

株主還元

当期純利益率



配当金



長期安定的な配当を実施し、配当性向30%をめざす

目次

1 . 2014年3月期 実績

2 . 2015年3月期 予測

3 . 将来への取り組み

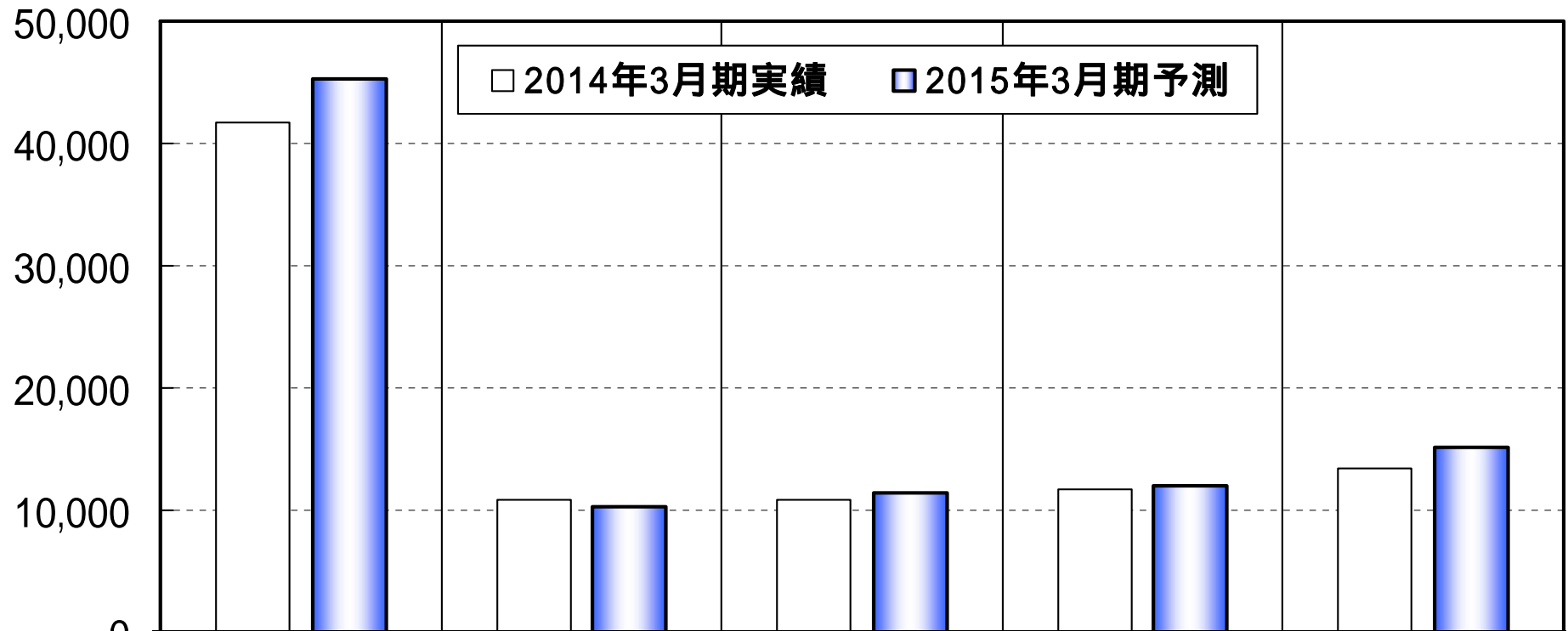
2015年3月期 通期業績予測 =連結=

単位：百万円

	2015年3月期予測	2014年3月期実績	増減値	増減率
売上高	98,000	93,632	4,368	4.6%
営業利益	5,200	4,162	1,038	24.9%
経常利益	5,100	4,449	651	14.6%
当期純利益	3,100	2,796	304	10.8%
為替レート	100円/ドル 130円/ユーロ	100円/ドル 134円/ユーロ	0円/ドル 4円/ユーロ	-
1株当たり 純利益	108.36円	98.11円	10.25円	10.4%
トヨタ 世界生産台数	915万台	895万台	20万台	2.2%

2015年3月期 事業別売上高予測 =連結=

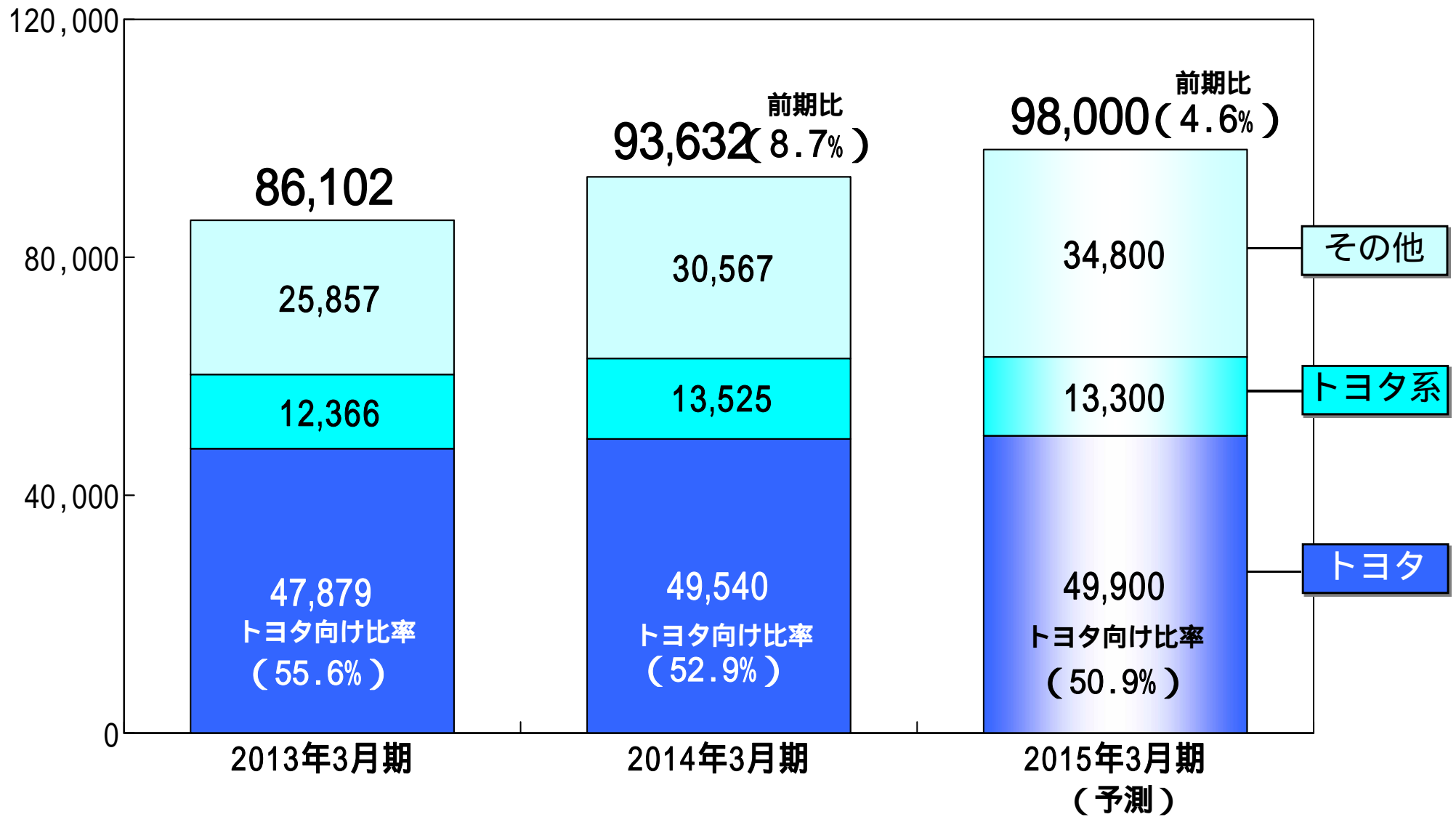
(百万円)



	軸受	システム製品	ダイカスト製品	ガスケット製品	設備・型・治具
2014年3月期	41,769	10,854	10,850	11,736	13,473
2015年3月期予測	45,225	10,301	11,386	11,985	15,160
増減額	3,456	553	536	249	1,687
増減率	8.3%	5.1%	4.9%	2.1%	12.5%

顧客別売上高構成 =連結=

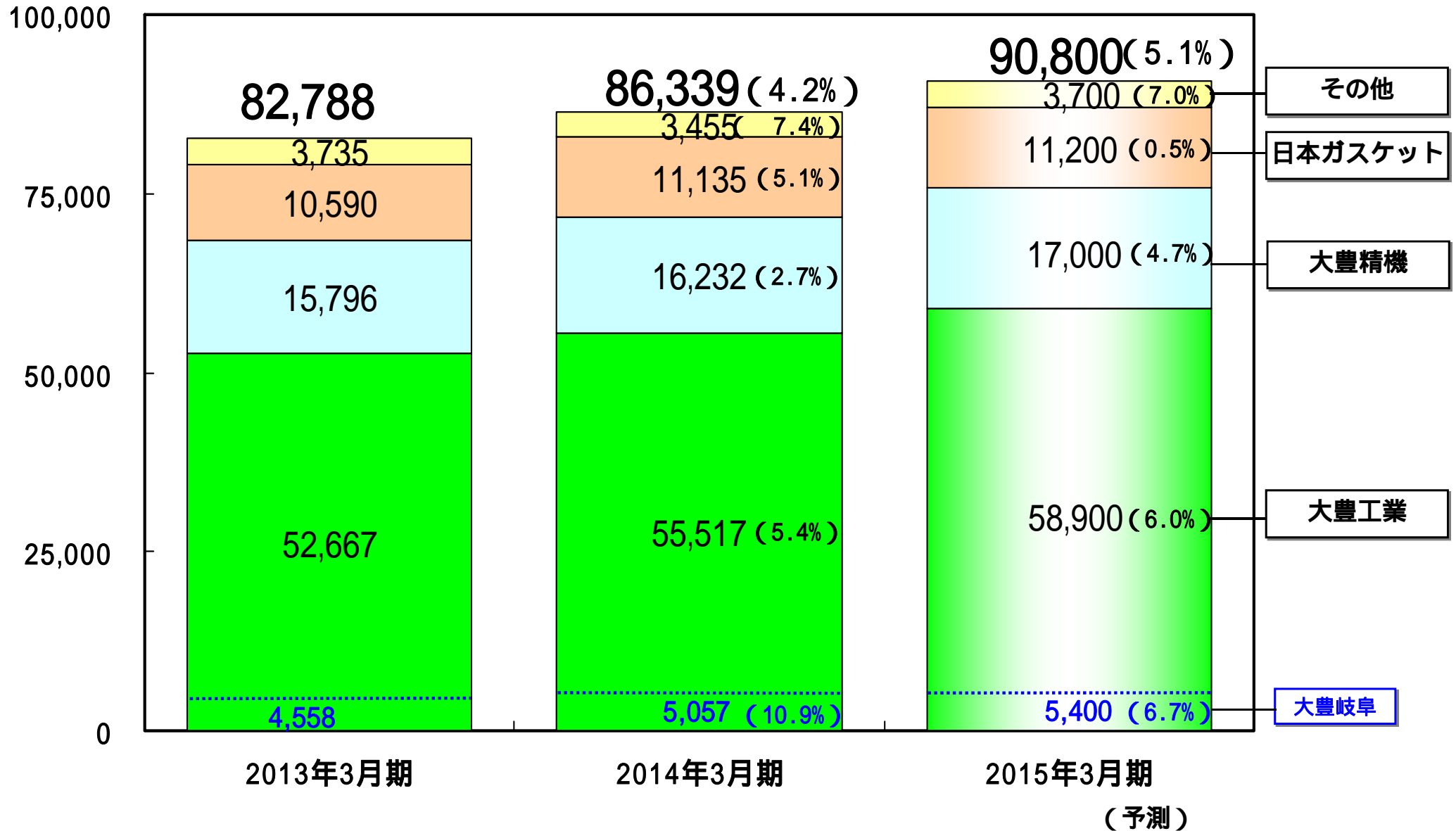
(百万円)



国内連結売上高(連結消去前)

(百万円)

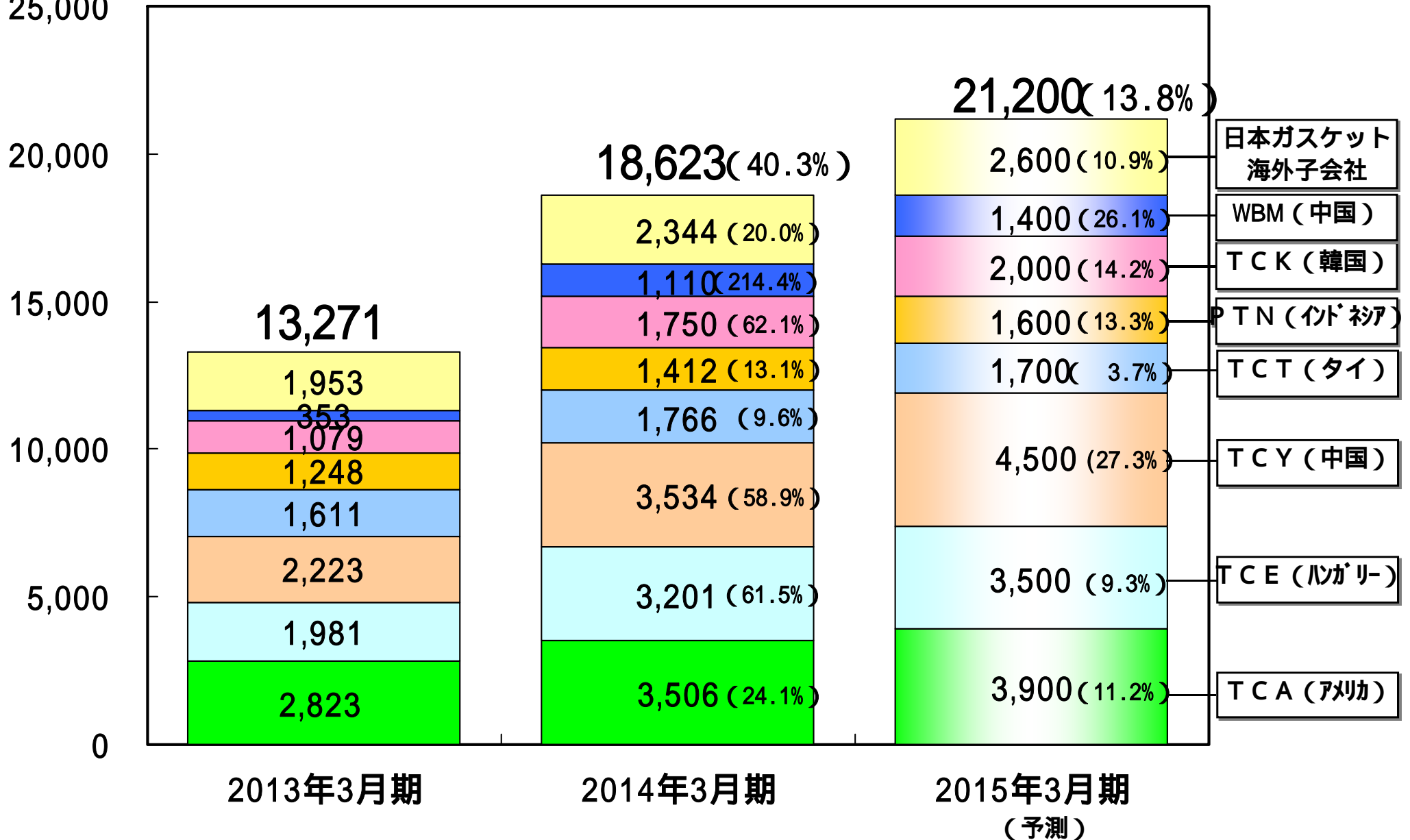
(カッコ内は対前年増減率)



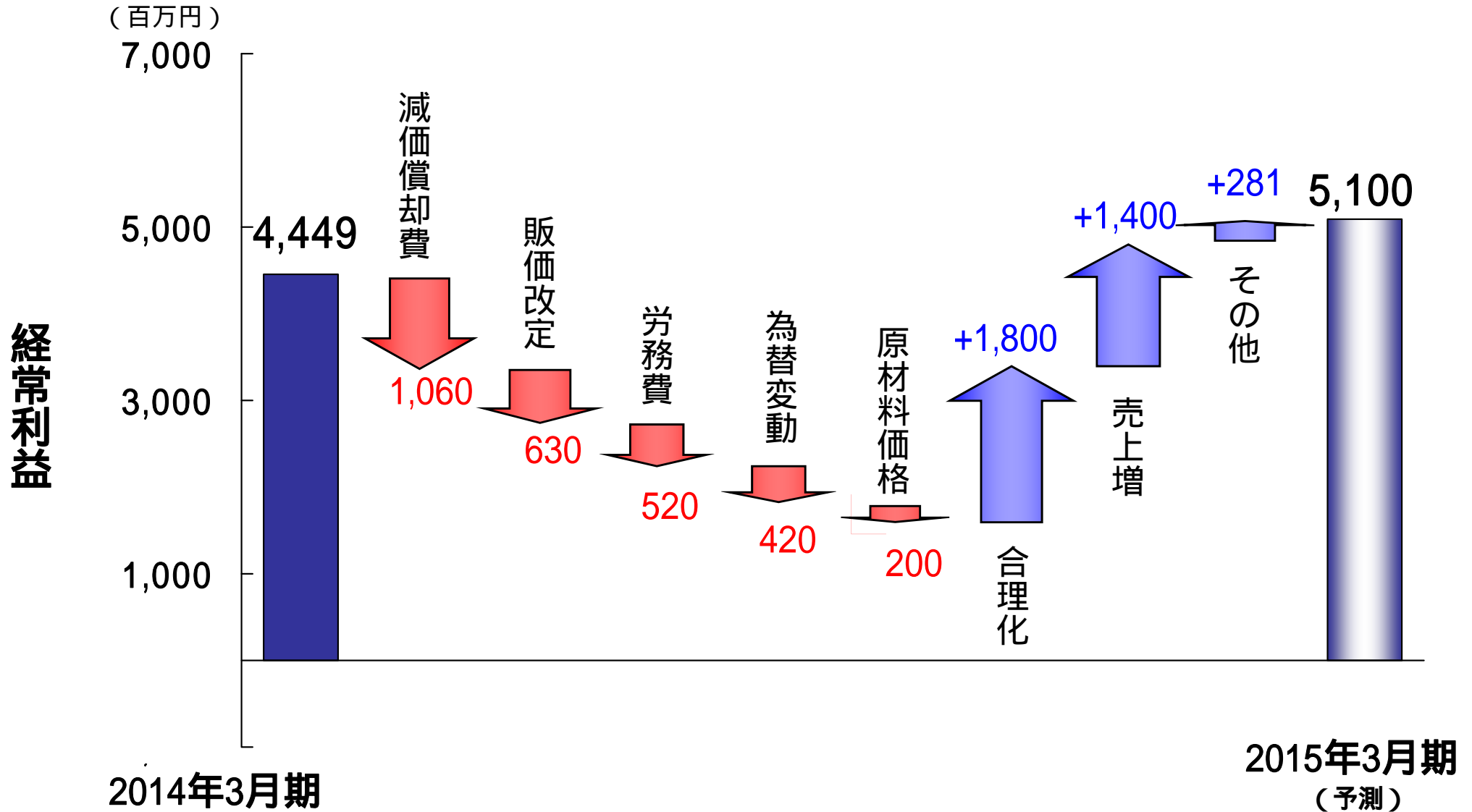
海外連結売上高(連結消去前)

(百万円)

(カッコ内は対前年増減率)



経常利益増減要因予測(前年比) =連結=

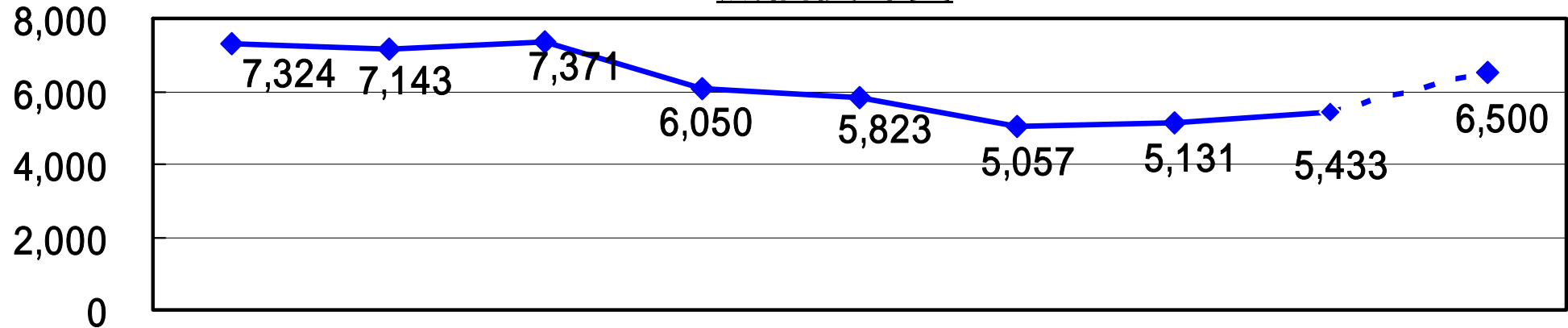


経常利益 651百万円の増

減価償却費・設備投資額 =連結=

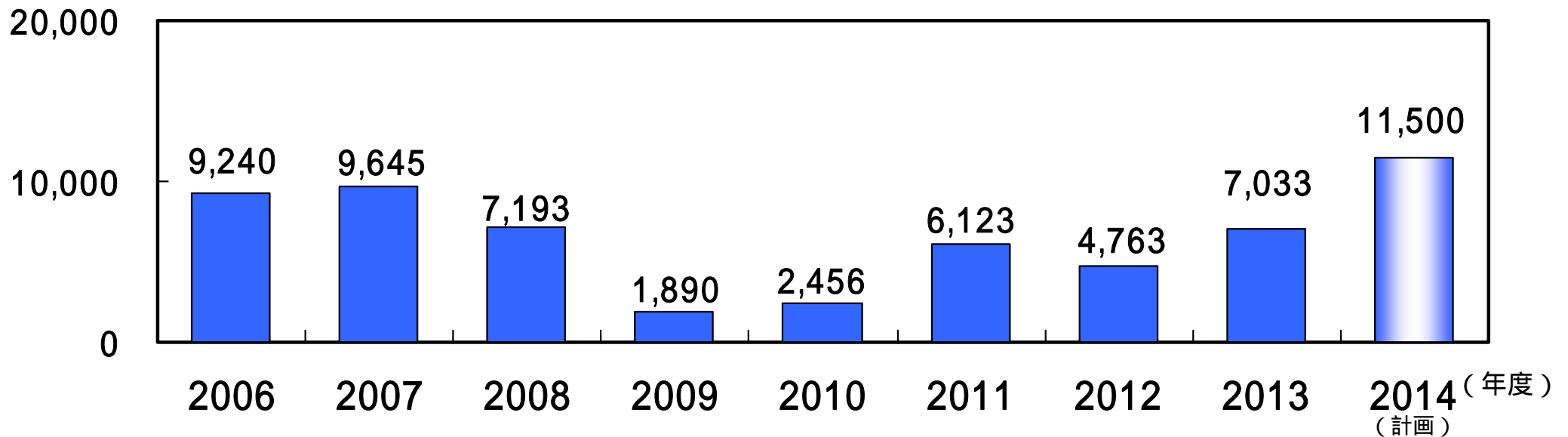
(百万円)

減価償却費



(百万円)

設備投資額



2014年度、生産設備増強を中心に積極的な投資を実施

1 . 2014年3月期 実績

2 . 2015年3月期 予測

3 . 将来への取り組み

使 命

大豊グループは
トライボロジーを基盤とした
製品とエンジニアリングをもって
社会に貢献する
(ステークホルダー・地球環境)

【中期経営方針】

～ 信頼されるグローバル企業を目指して ～

- ・ 強固な経営基盤のもと、継続的に新技術・新製品を開発する
- ・ 迅速な海外生産展開により良品廉価製品をグローバルに提供する

【活動の3軸】

製品・製造領域のグローバルな拡大

- ・ 軸受のグローバル市場を的確に把握し、適時・適地に適確な製品を供給する
- ・ 資源、環境動向を先取りした製品を開発・提供し社会に貢献する
- ・ 生産拠点の自立化により、グローバル生産体制を強化する

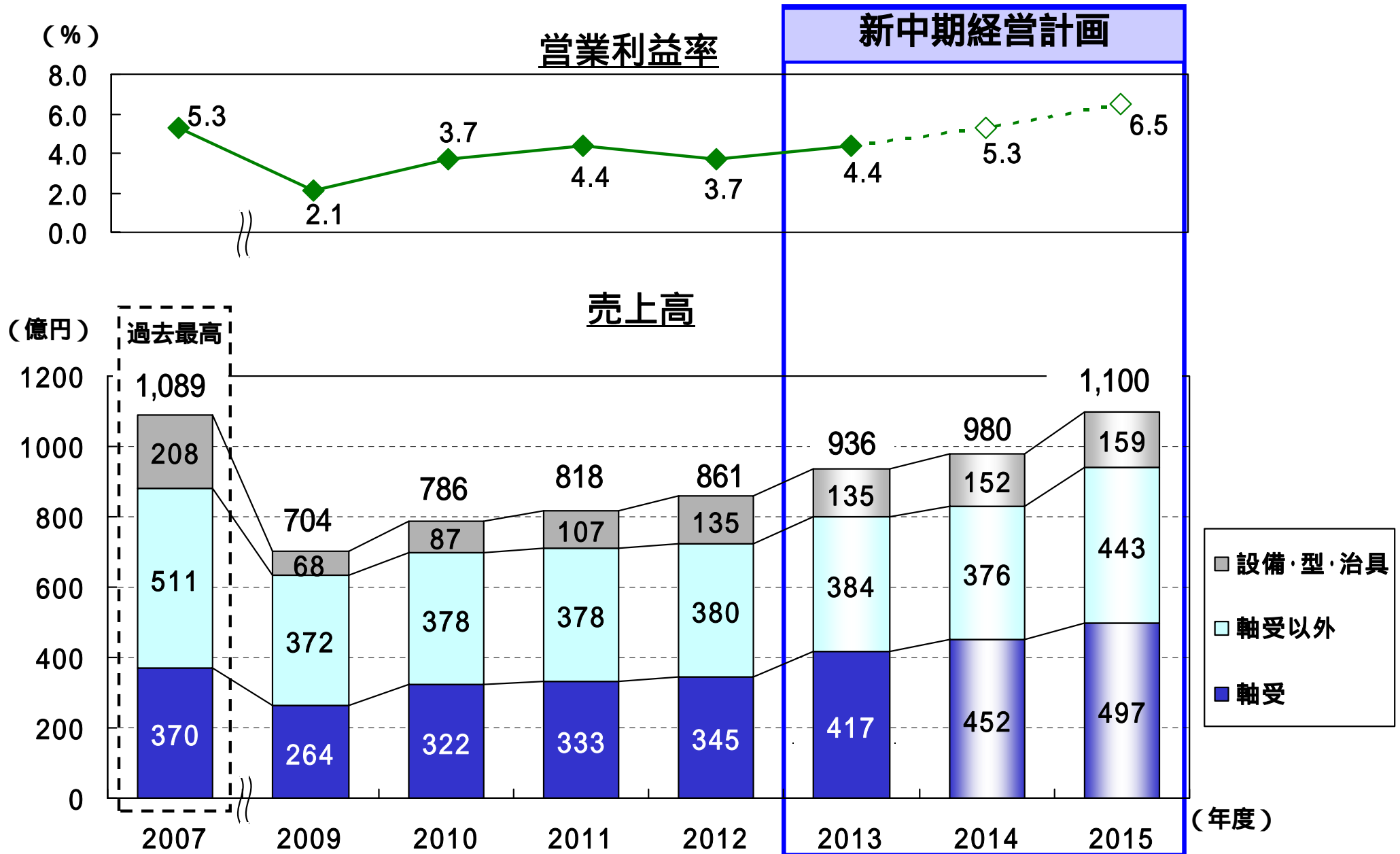
製品技術・生産技術の革新

- ・ トライボロジーを軸に軸受から潤滑システムへ技術領域を拡大する
- ・ グローバル競争に勝ち抜く、革新的標準ラインを構築する

人財力の強化

- ・ マネジメント力を向上する
- ・ 社員が自ら成長できる育成環境と会社風土を創造する
- ・ 事技部門の生産性を画期的に向上する

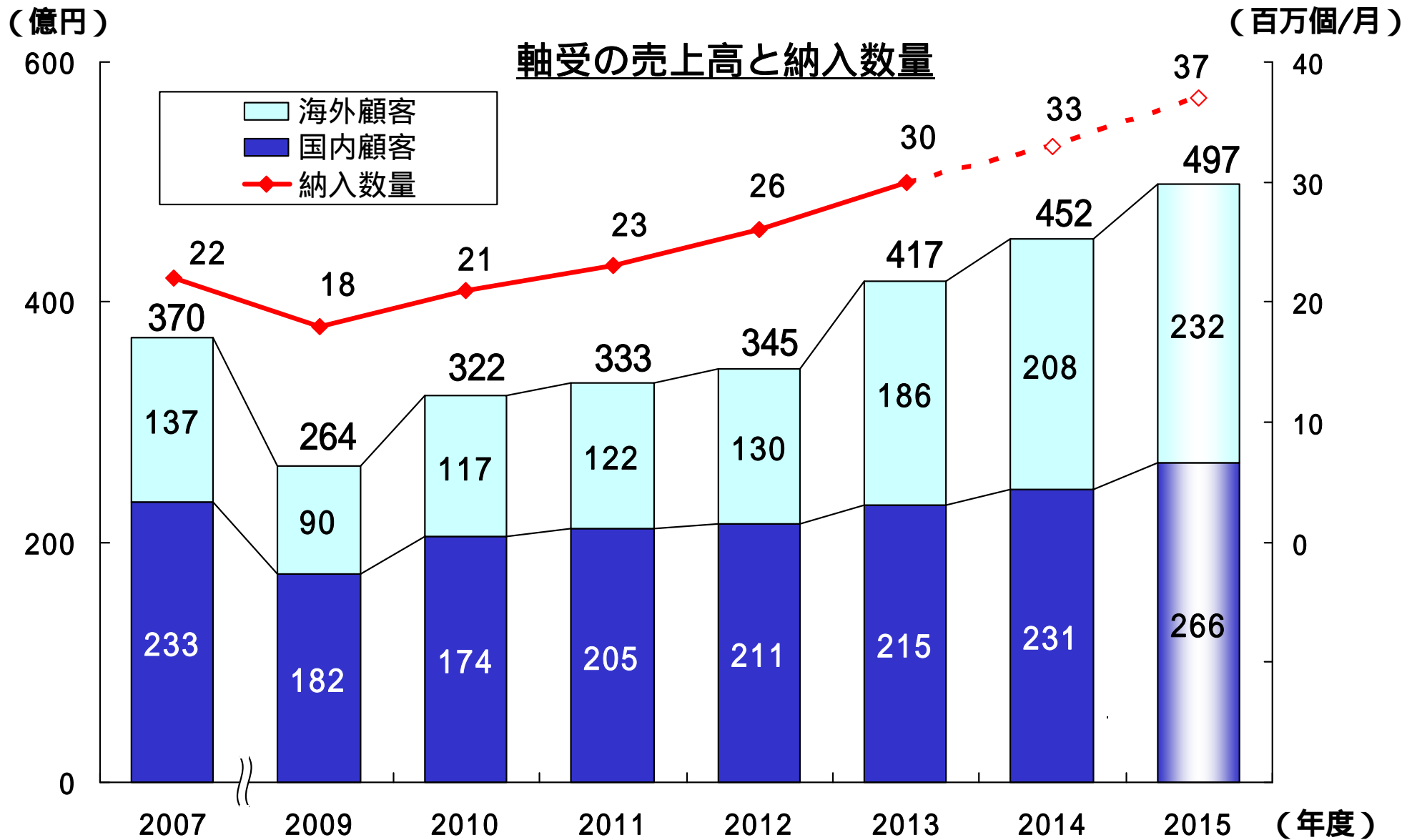
新中期経営計画 達成目標



2015年度に過去最高の業績をめざす
 (売上高：1,100億円以上、営業利益率：6.5%以上)

軸受事業の拡大

軸受事業の拡大 = 売上高と納入数量 =



エンジンベアリングのシェア

2009年: 17% → 2013年: 20% → 2015年: トップシェア

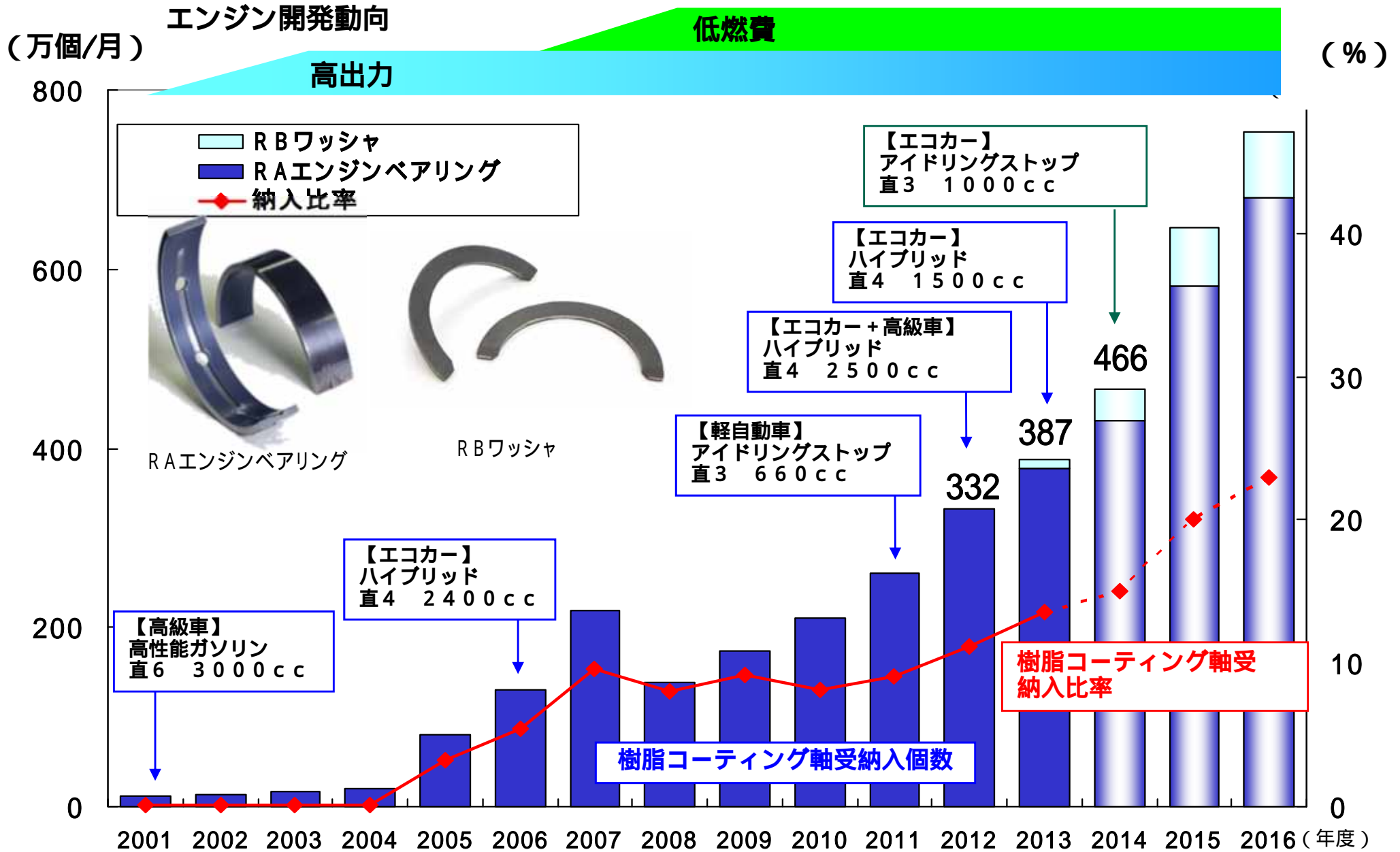
軸受事業の拡大 = 考え方 =

市場動向	考え方	取り組みの現状と今後の方向性
低燃費化の加速	(1) 高機能軸受 樹脂コーティング軸受による低燃費対応	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> 樹脂コーティング軸受の新規客先からの受注とクランクワッシャへの適用拡大 性能向上、低コスト化に向けて新樹脂コーティング材料の開発完了 <p><今後></p> <ul style="list-style-type: none"> 新樹脂コーティング材料への切り換えによる競争力の向上 アルミ系、銅系軸受材料革新による性能・価格競争力の向上
	(2) 製法刷新 加工、めっきラインのコスト競争力アップ	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> RR加工ライン立ち上げ、2号機への展開 めっき新コンセプトラインの完成をはじめとする全面更新に着手 <p><今後></p> <ul style="list-style-type: none"> RRラインのインドネシア、中国への増設・海外展開 樹脂コーティング軸受の1回塗り工法の全面展開 グループ3社協業による実証ラインを用い、設備革新
	(3) 生産能力増強 完成車メーカーの海外現地調達対応	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> TCA、PTNの工場拡張完了、TCA加工設備の増強完了 国内 細谷工場の再構築と大豊岐阜の設備増強による国内生産量の増 <p><今後></p> <ul style="list-style-type: none"> TCY、PTNへのRRライン導入、TCAへの樹脂コーティング設備導入 TCE加工設備、WBM素材能力増強による軸受生産能力の拡大を継続
軸受未参入分野への展開		

市場ニーズの先取りと拡販活動で、**軸受 1** をめざす

(1) 高機能軸受 = 樹脂コーティング軸受 =

樹脂コーティング軸受 納入個数



(2) 製法刷新 = RR (良品廉価) ライン =

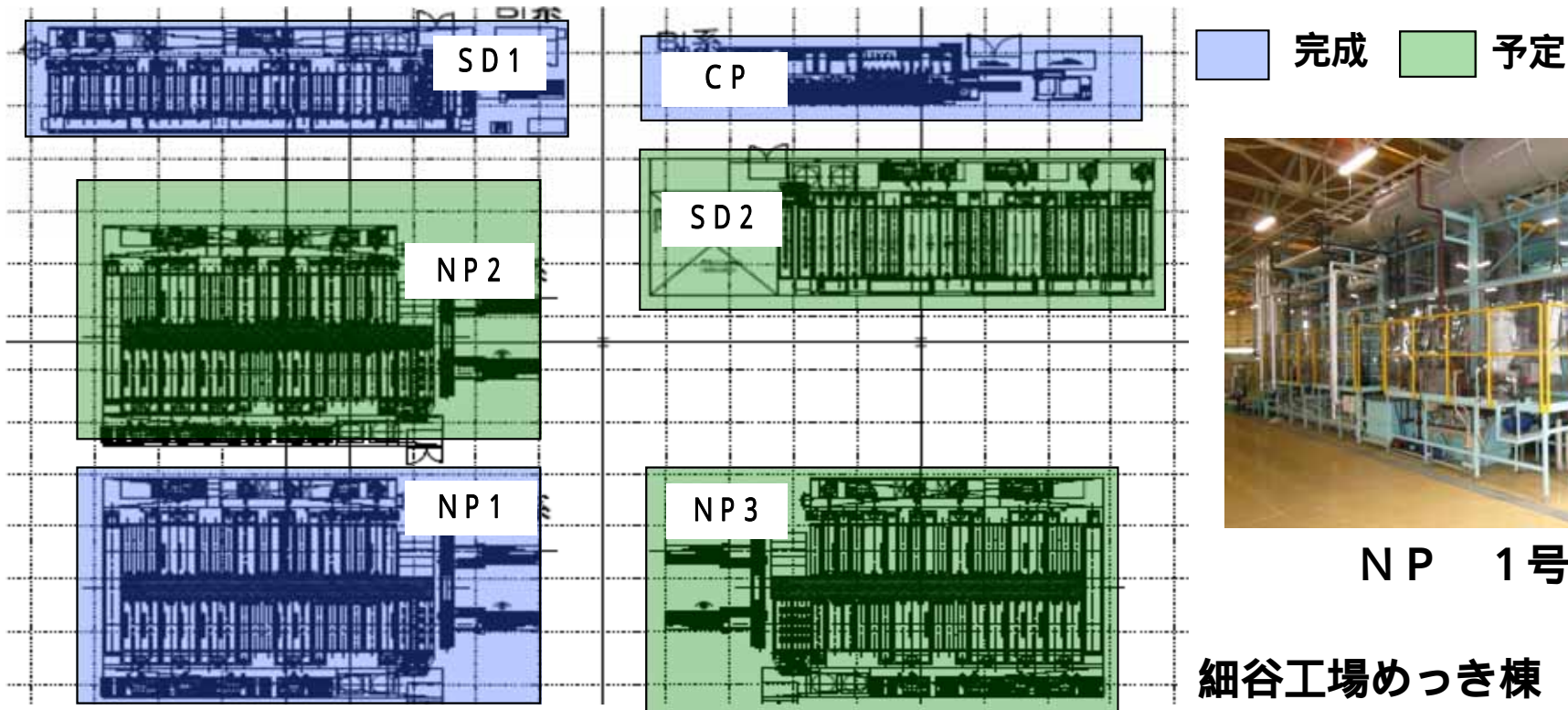


増設計画

	2012	2013	2014	2015	2016
国内	1号ライン(細谷工場)				
	2号ライン(細谷工場)				
海外	3号ライン(インドネシア)				
	4号ライン(インドネシア)				

低価格車分野のシェアアップとコスト競争力向上

(2) 製法刷新 = めっきライン =



2012	2013	2014	2015	2016
新コンセプト(CP) 1号ライン				
サイズダウン(SD) 1号ライン				
NP 1号ライン(旧ライン更新)				
			NP 2号ライン(旧ライン更新)	
			NP 3号ライン(旧ライン更新)	
			サイズダウン(SD) 2号ライン	

(3) 生産能力増強

グローバル生産能力

3,000万個/月(2012年度)

⇒ 4,000万個/月(2015年度)

北米(TCA)

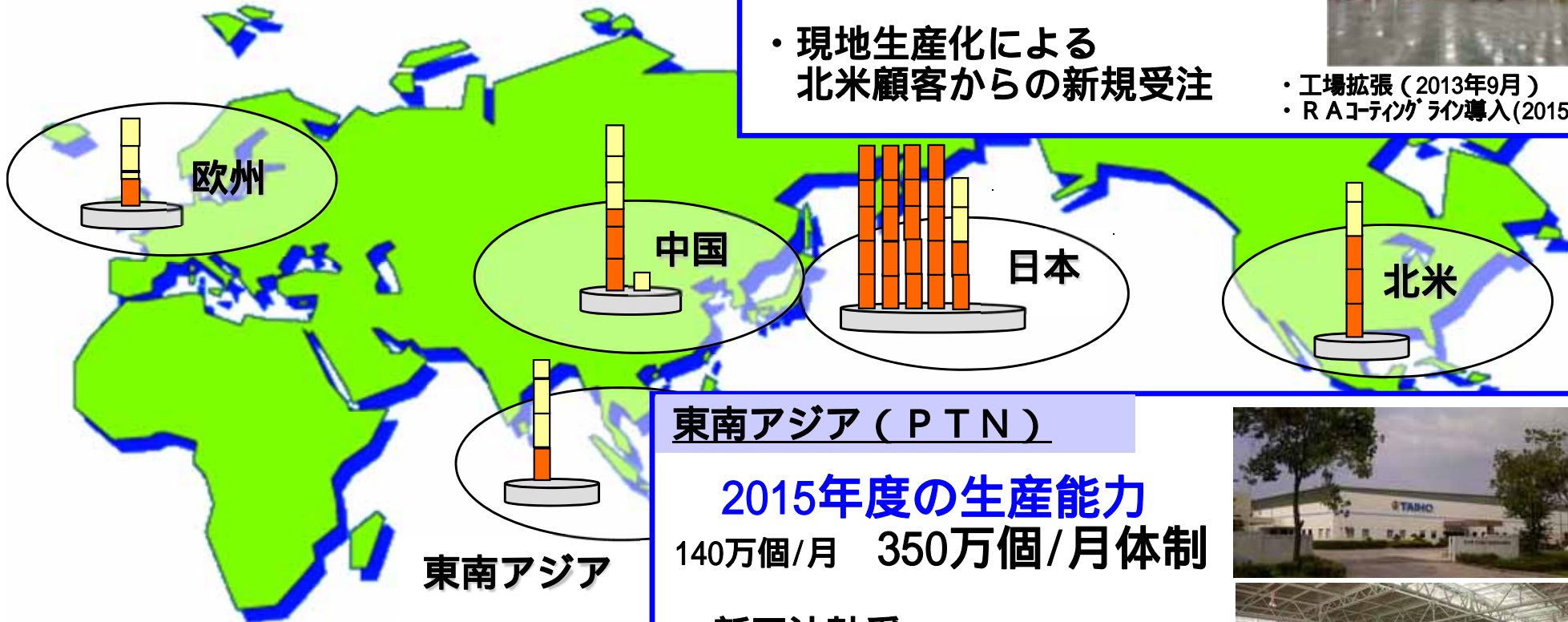
2015年度の生産能力

300万個/月 450万個/月体制

- ・樹脂コーティング
RAライン導入予定
- ・現地生産化による
北米顧客からの新規受注



- ・工場拡張(2013年9月)
- ・RAコーティングライン導入(2015年予定)



東南アジア(PTN)

2015年度の生産能力

140万個/月 350万個/月体制

- ・新工法軸受
RRライン導入予定
- ・新興国市場における
価格競争力の強化



- ・工場拡張(2013年3月)
- ・RRライン導入(2015年予定)

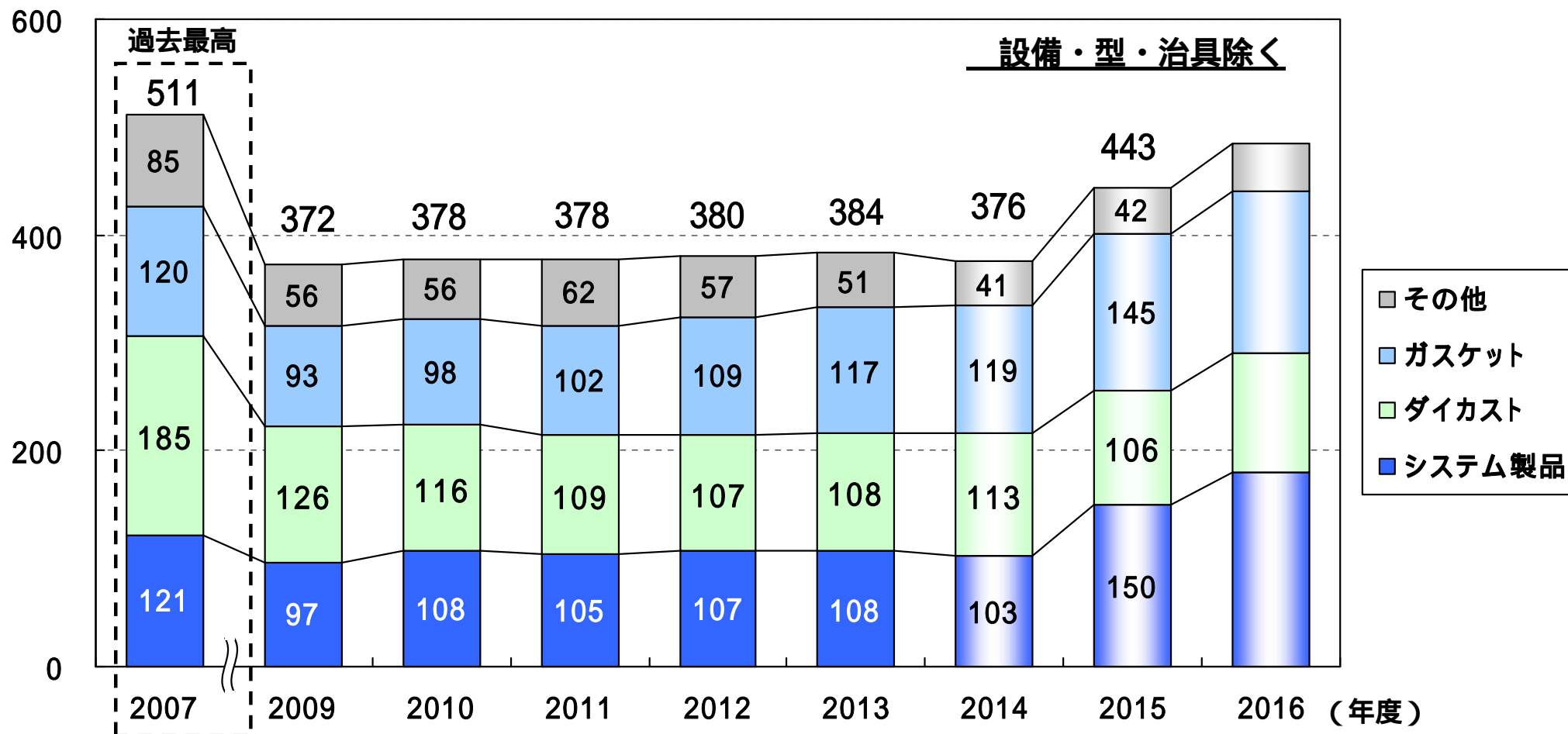
システム製品を中心とした 非軸受事業の拡大

非軸受事業の拡大 = 売上高 =

- ・ 組付型の製品をシステム製品ととらえる
- ・ 低燃費化、排出ガス浄化などで、環境貢献をめざす

(億円)

非軸受製品の売上高



非軸受事業の拡大 = 考え方 =

市場動向	考え方	取り組み状況と今後の方向性
低燃費化の加速	<p><u>(1)軸受から潤滑システムへの領域拡大</u></p> <p>トライボロジーを基盤として低燃費に直結する潤滑システムの取り組み</p>	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「エンジン油量分配最適化計算システム」を完成 ・動弁系周辺部品で製品化が進行 <p><今後></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年度目途で製品化 ・その後、エンジン以外(トランスミッション、ターボチャージャ)のユニットへの適用拡大 ・2016年度以降、サブシステム化を目指す
海外現地生産拡大	<p><u>(2)低燃費化エンジンのグローバル対応</u></p> <p>環境対応製品の新製品開発と海外現地調達対応</p>	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ・バキュームポンプのシリーズ化完了、タイ現地生産準備中 ・トヨタ自動車のTNGA活動に参画「TNGA推進優秀賞」を受賞 ・日本ガasket抄造技術による樹脂ギヤの開発、新規受注 <p><今後></p> <ul style="list-style-type: none"> ・バキュームポンプの客先拡大に対応した生産能力増強 ・ターボチャージャ用センターユニットのサブシステム化 ・日ガス抄造技術適用部品の開発・拡大
排出ガス規制強化	<p><u>(3)排出ガス浄化デバイス対応</u></p> <p>強化される規制に対応した新製品開発と新規顧客への拡販</p>	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型EGRの機能向上 ・小型ディーゼルエンジン向けEGRの開発完了 <p><今後></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「EGR(排気ガス再循環)」に関連した製品群の開発
<p><u>グループの製品開発力を最大化し、システム部品を軸受と対極化できる規模に拡大</u></p>		

低燃費化、排出ガス規制対応に貢献することで環境ブランドを確立

(1) 軸受から潤滑システムへの領域拡大

潤滑システム

油量低減
摩擦低減

ターボ潤滑油量制御
摩擦低減

油量絞り
カムシャワー

全軸受部の
油量最適化と
摩擦低減

ターボ油量
制御バルブ

油量制御

軸受油量
制御バルブ

電子制御式
ピストンジェット
コントロールバルブ

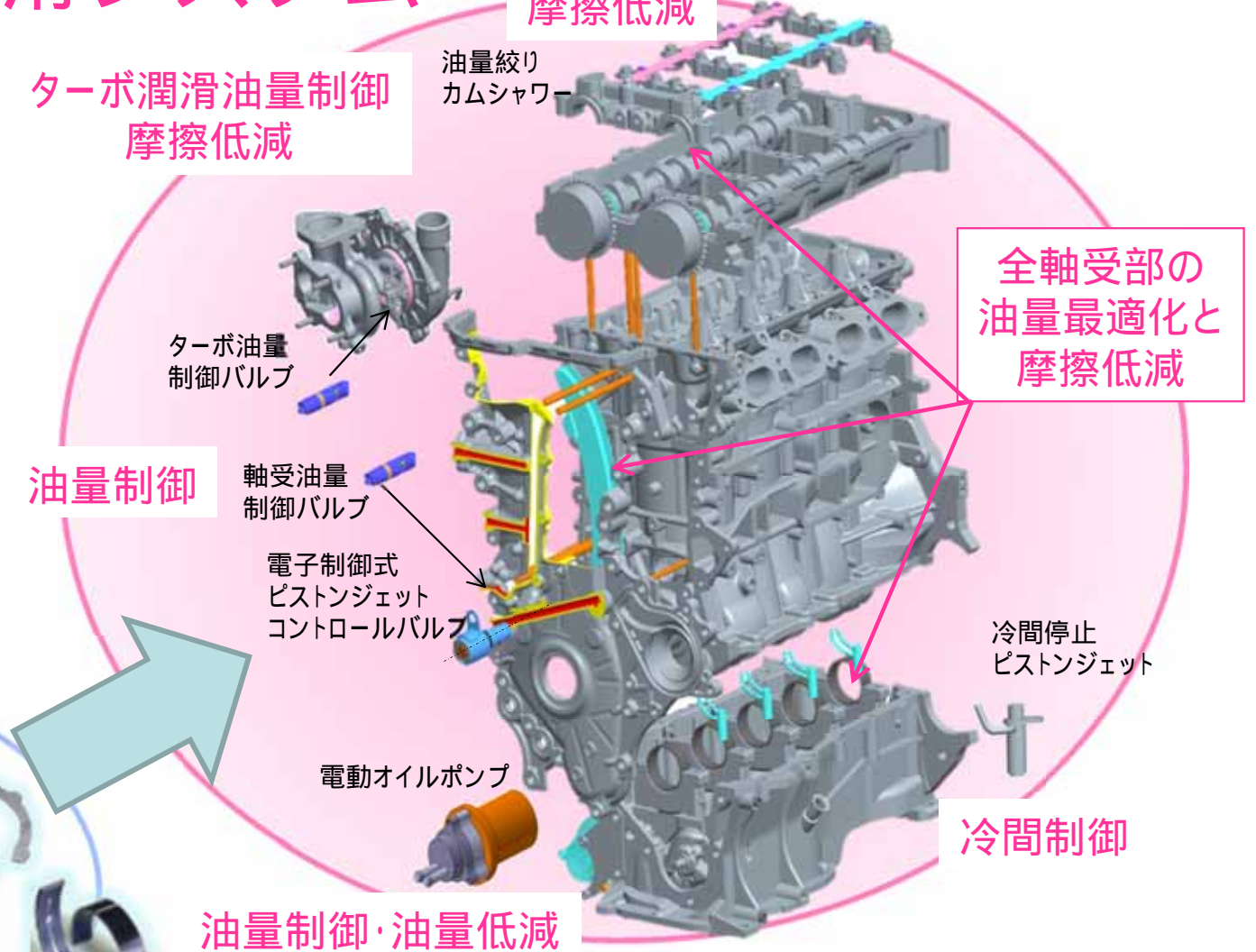
冷間停止
ピストンジェット

電動オイルポンプ

冷間制御

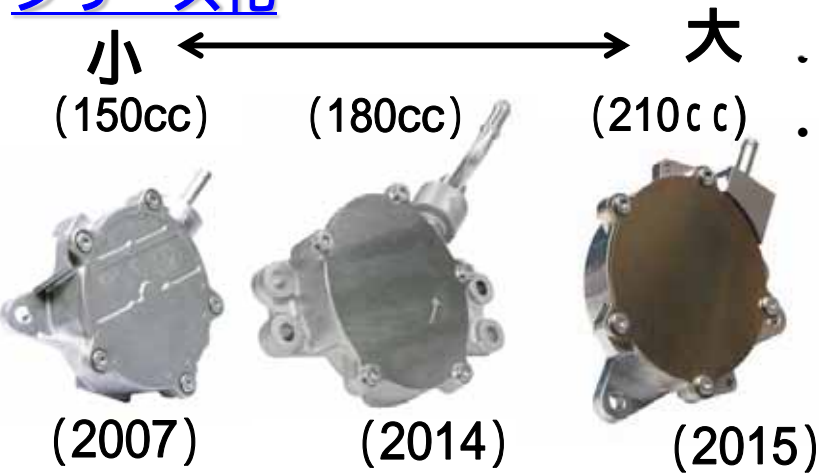
油量制御・油量低減

現在の製品群



(2) 低燃費化エンジンのグローバル対応 = バキュームポンプ =

シリーズ化



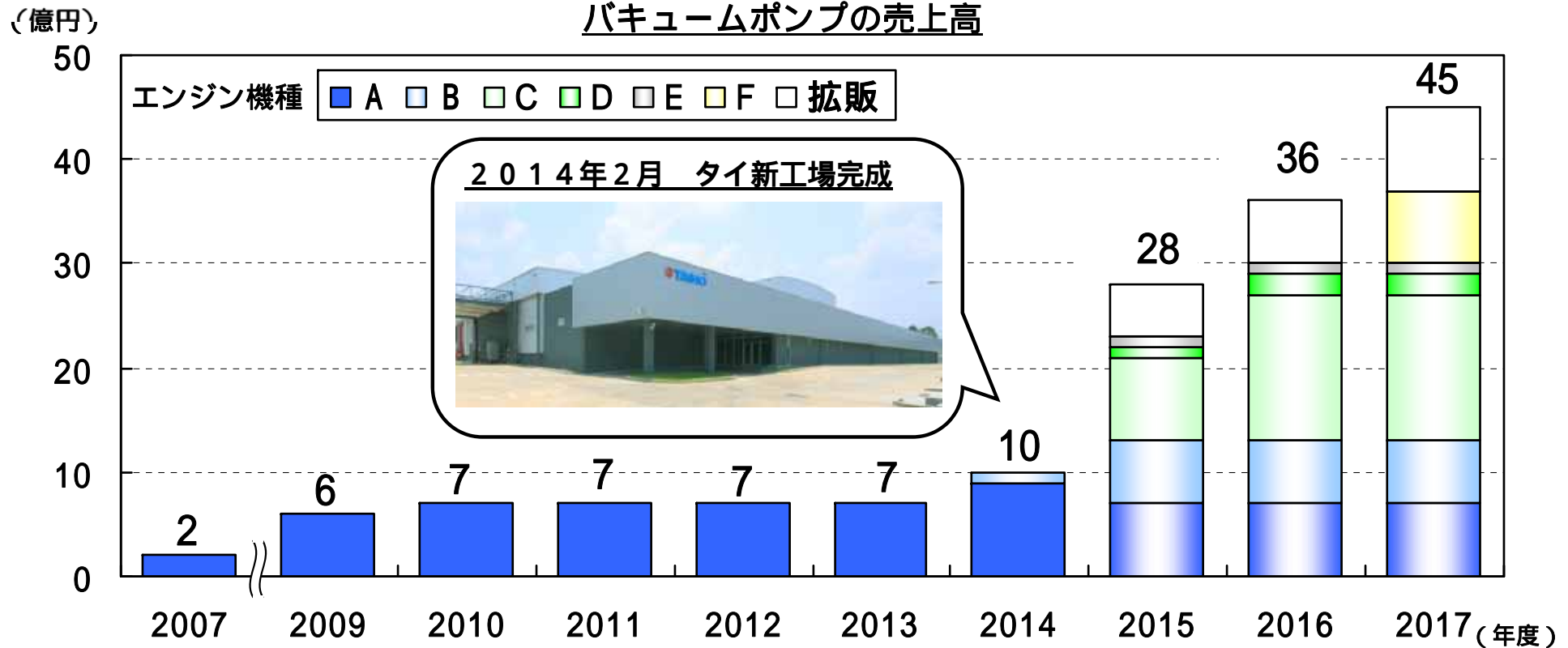
部品共通化

- ・ TNGAに対応した新機種を量産開始予定(2017年)
- ・ トヨタ自動車より「TNGA推進優秀賞」を受賞(2014年2月)



売上拡大

バキュームポンプの売上高

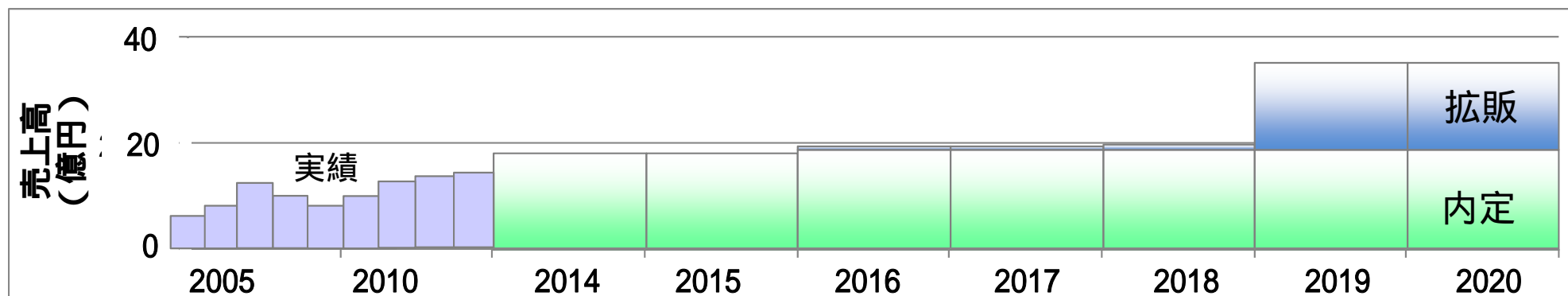


(3) 排出ガス浄化デバイス対応 = EGRバルブ =

大型商用車から小型乗用車への領域拡大

実績 (実績) 内定 (内定) 拡販 (拡販)

		2005	~	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	
排気ガス 規制	国内	新長期									
	欧州	Euro5			Euro6				Euro7		
	北米	US13					US17				
大 ↑ 商用車 ↓ 乗用車 小	商用車	DCブラシレスモータ駆動									
	乗用車		DCブラシ付モータ駆動	ソレノイド駆動				ガソリン過給&ディーゼル			
						ガソリン小排気量					



V I S I O N 2 0 2 0

VISION2020 ～地球環境とお客様への貢献～

トライボロジーをコアに、軸受をはじめとした環境に貢献する製品を
迅速に生み出し、グローバルにお客様へお届けする

VISIONを実現する人財

グループの持続的成長

地球環境に貢献する
イノベーション

グローバル供給を支える
製造・生産技術

2020年の世界

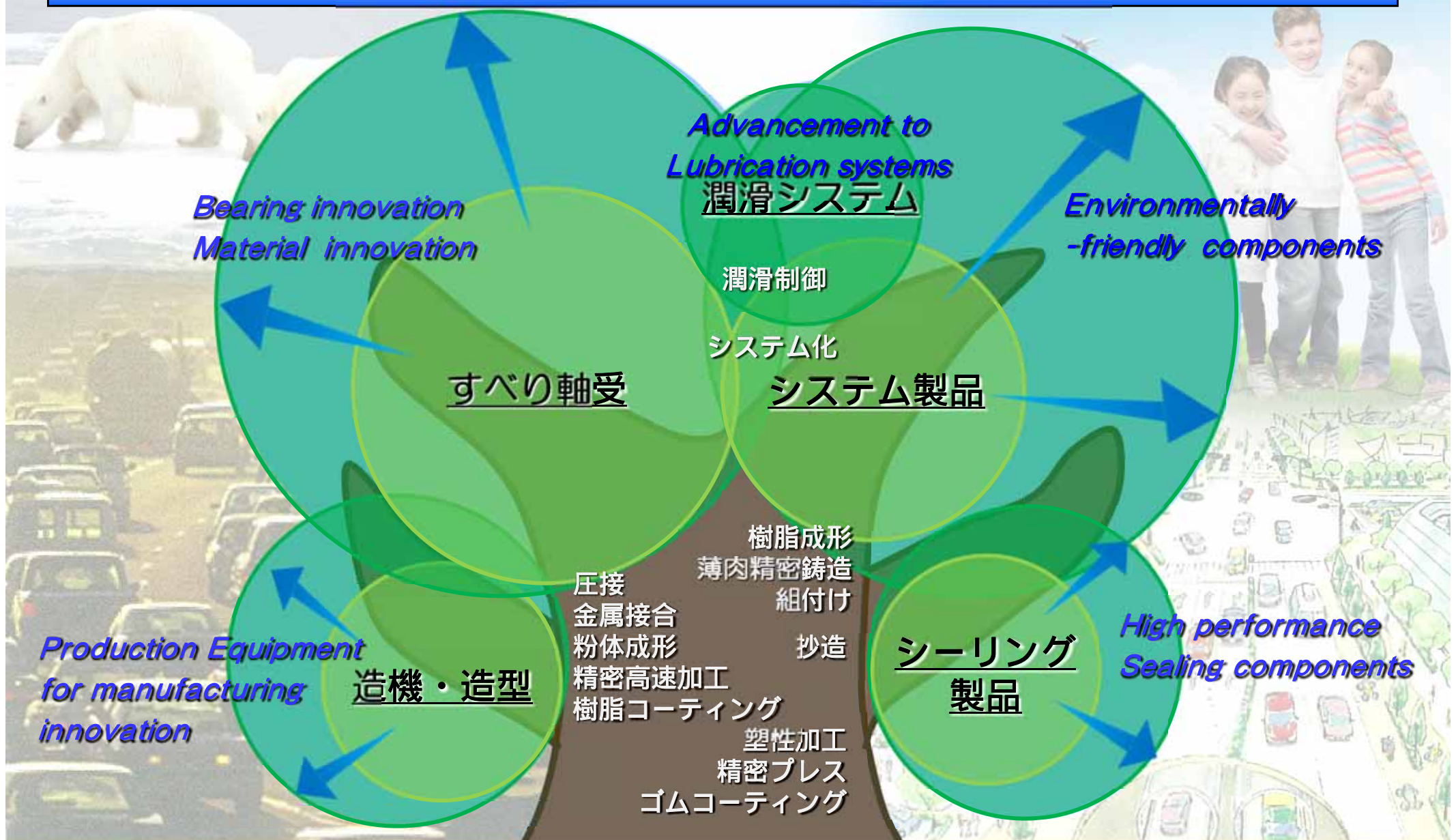
多様化するエネルギーと
広域化する環境課題

成長を続ける新興国と高度化する先進国、
自動車市場は1億台へ

発展途上国の人口増と先進国の高齢化、
生活環境の高度化につれ資源が枯渇

環境技術が進化し、
技術のモジュール化と大規模化が進展

多様な製品群で地球環境とお客様に貢献する



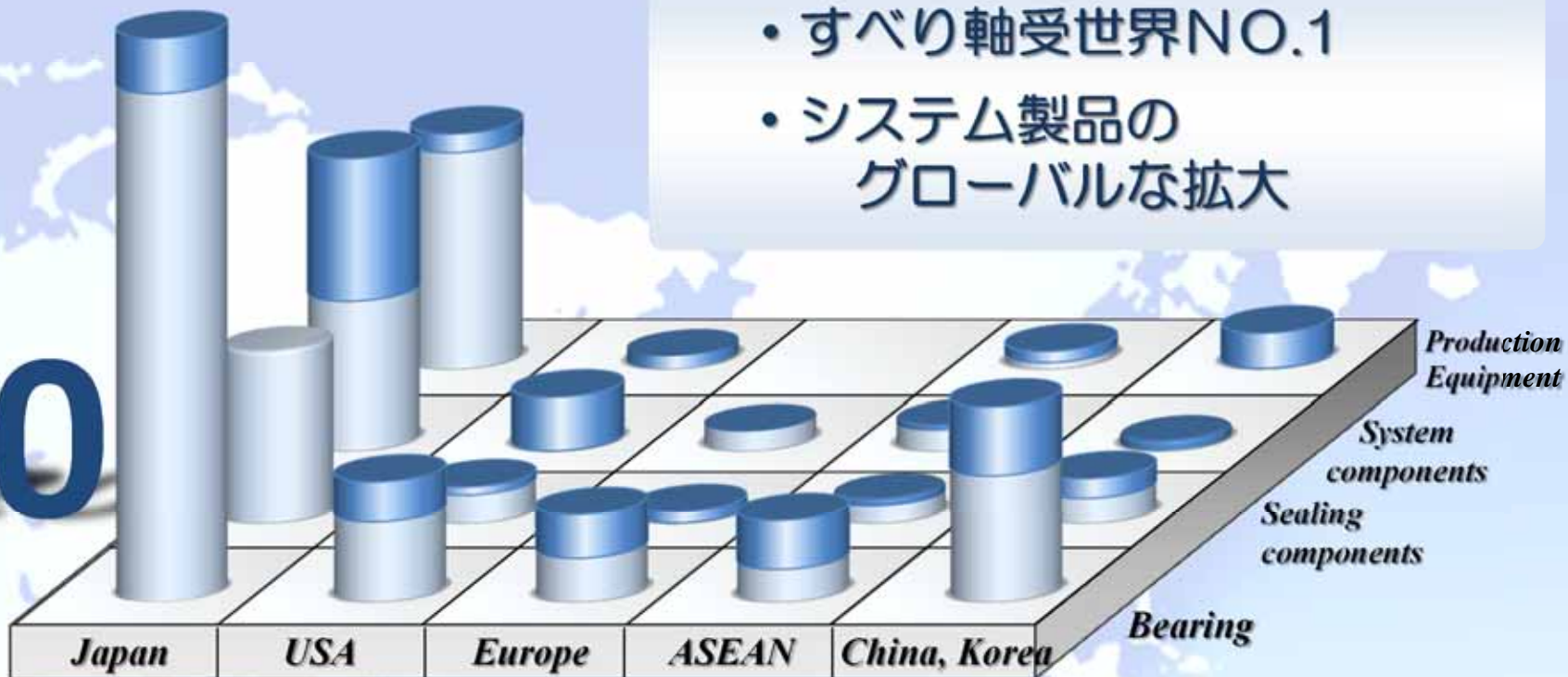
トライボロジー

流れ解析 軸受設計 CFD
EHL解析 材料設計 CASE

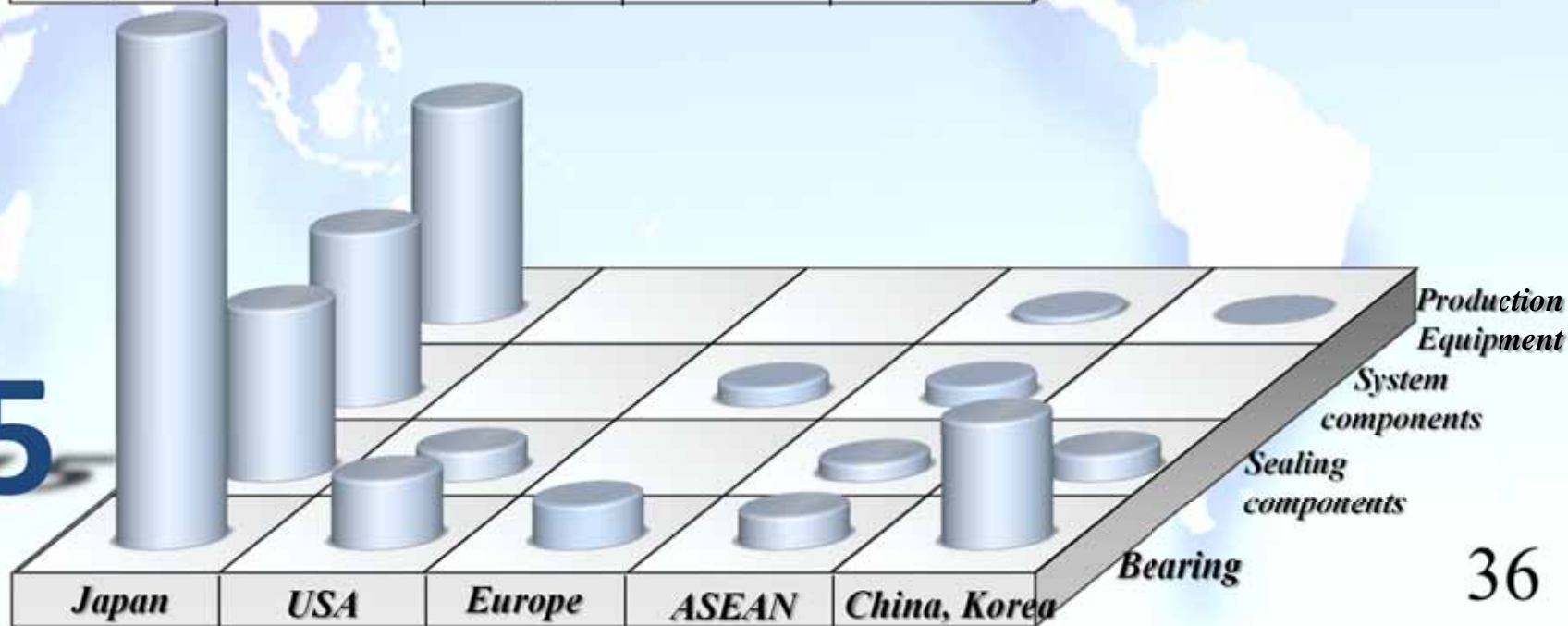
新製品をグローバルなお客様にお届けし、売上拡大を目指す

- すべり軸受世界NO.1
- システム製品のグローバルな拡大

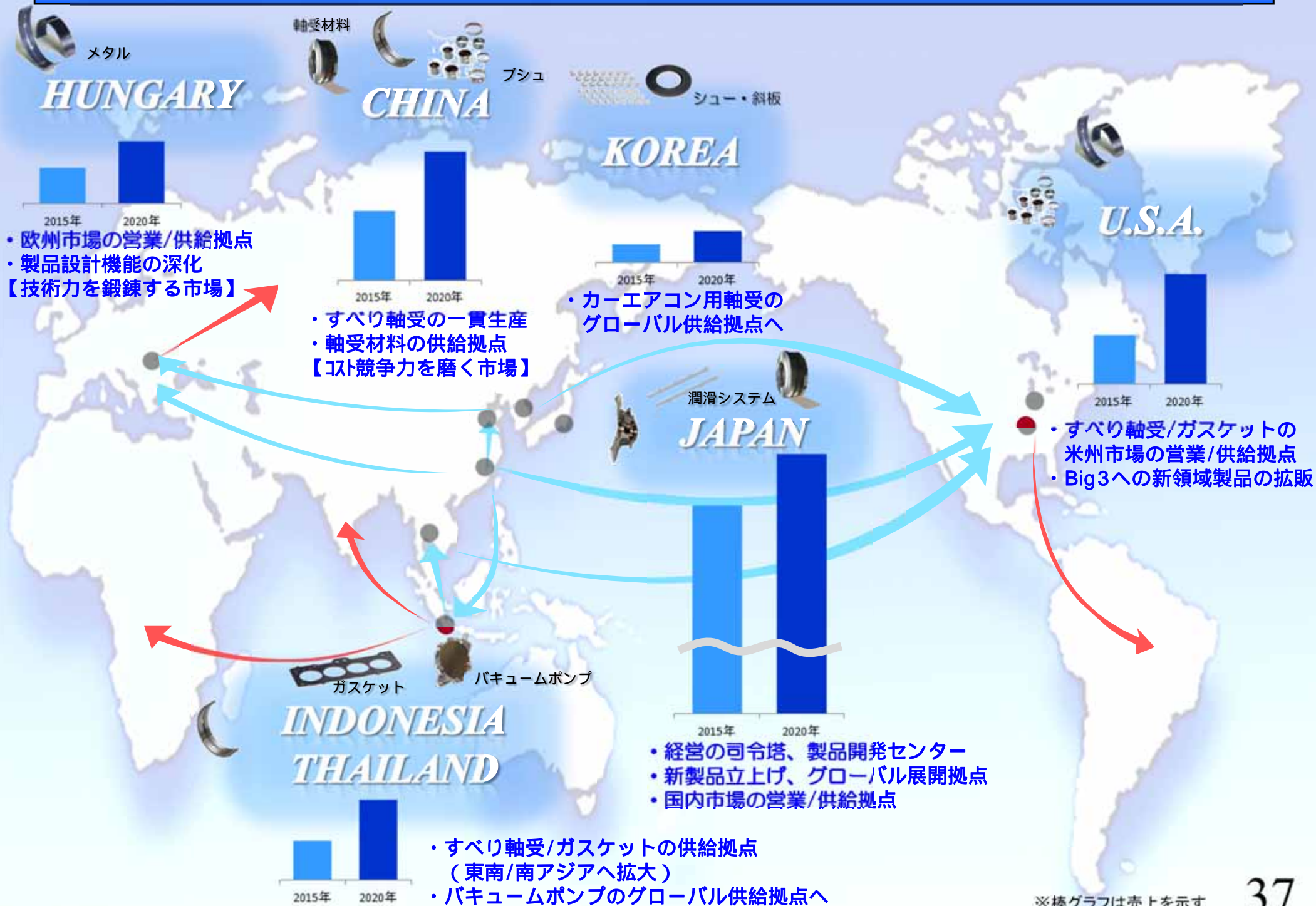
2020



2015

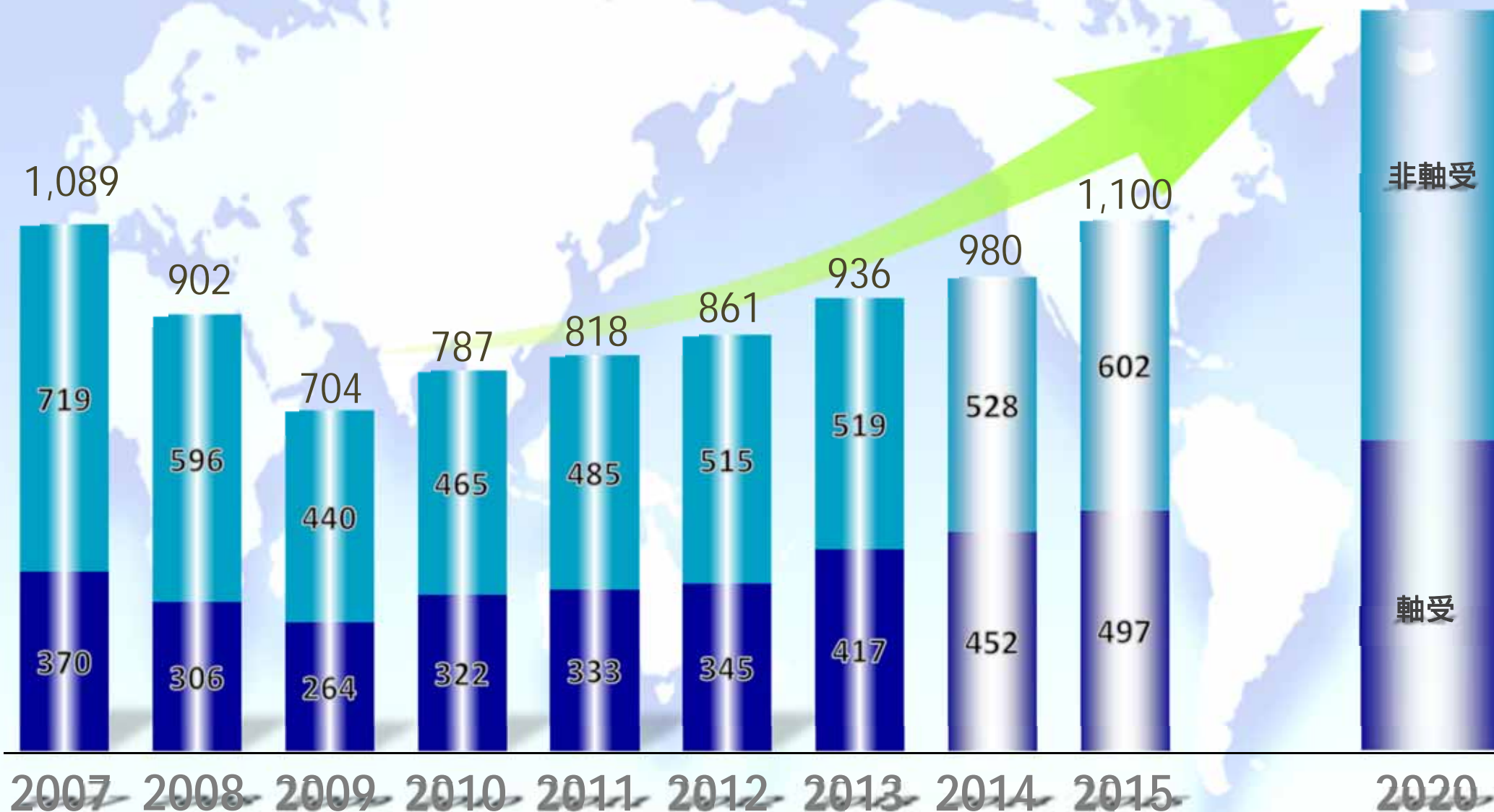


グローバルネットワークを強化し、製品をお客様へタイムリーにお届けする



地球環境とお客様への貢献により「持続的な成長」を実現する

(単位:億円)



社 是

私たちは時流に先んじ、合理主義に基づき
優れた製品をもって顧客の信頼に応える

—信頼の大豊—

VISIONを実現する人財

グループ全ての人々が価値を共有する
自らが能力を開発し未来をきりひらく

グループの持続的成長

お客様ニーズに適確に応える
グループ価値を最大化する

地球環境に貢献する イノベーション

トライボロジーをコアとした技術の進化
世界をリードする軸受
環境に貢献するシステム製品

グローバル供給を支える 製造・生産技術

グローバル生産の拡大と相互補完
製造システムと工法の革新

ご清聴ありがとうございました

お問い合わせ先

大豊工業株式会社

総務部広報室

TEL 0565-28-2225 (代表)